

# 女川町 支援活動レポート

2012.03.09 ~ 2012.03.11

(宮城県牡鹿郡女川町 各所にて)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成24年3月22日(木)

東北被災地応援団 白金支部

工藤 史大

## 女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により、亡くなられた方のご冥福を、心からお祈り申し上げるとともに、被災された皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。  
被災地の一日も早い復興を、心からお祈り申し上げます。

### 1. はじめに

2011年3月11日から、調度1年が経過する時、女川町に居る。大変悩む決断でした。  
我々は、決して女川町の方々が、望まない事をしたくありません。  
女川町の方々は、一周忌となるその日の前日に、我々が仮設や在宅に入る事を、どの様にとらえられるのか、分かりませんでした。お邪魔させて頂く仮設の区長さん、お世話になっている町民の方々、REALeYEの高橋さん、沢山の方々にご相談させて頂きました。すると、「待っているよ。」「楽しみにしているよ。」「あなた方ならば、是非おいで。」  
我々を受け入れて頂けていると、確信し得るコメントを、頂きました。  
しかしながら、それが、女川町全体の総意でない可能性も、もちろん想像し難いことでは、ありませんでした。  
それでも、待っていて下さる方が居らっしゃる、楽しみにして下さる方がいらっしゃるならば、お邪魔させて頂こう、と考えるに至りました。

今回の活動は、前回の様な、大がかりなものではありません。  
仮設住宅の集会場や、在宅の方のご自宅に上げて頂き、一緒に作り、一緒にお鍋を囲む中小規模の活動です。  
美味しいすき焼きパーティーという、少しワクワクするイベントを介し、コミュニケーションを活性化し、  
新たなコミュニティー形成の、お手伝いをさせて頂きたい。  
また、震災からまる一年が経過した現在、今後の、我々の支援の方向性を考えるべく、情報収集をする事も目的の一つでした。

皆様の暖かいご支援、ご協力のもと、行かせて頂き、活動をして参りました我々が、感じて来た今の女川町を、ご報告させて頂きます。  
まだまだ、有事にある女川町は、今後も継続的な関わりを必要としている事を、ご理解頂けますと、幸いです。

### 2. 現在の女川町について

震災から1年が経過するものの、女川町の中心部は、解体中の建物がぼつりぼつりと見られ、ガランとした、剥き出しの地を晒しています。信号機が一本立ちました。女川高校のグラウンドに、大きな仮設商店街が出来ました、が、まだ、開店していない店舗が、多い様です。  
移動手段は、誰かが持っている車か、乗り合いバスが一日2~3本、町を走ります。  
3月18日には、復幸祭という、初めて他県の人間を呼ぶ為のお祭りが、地元商工会の主催で開催されます。  
少しずつ、新たな動きが聞かれる一方で、仕事、生活の話は、重くのしかかります。  
元々、主な産業であった漁業による自活が難しく、復興に向けた、建築関係の仕事の募集ばかりを耳にします。  
やりたい仕事が出来ない、先が見えない、焦り、不安、疲れがあります。それでも、笑い飛ばす女川の方々。  
仮設住宅から、他の地に移り住む方もいらっしゃいます。 移り住む方の心、残る方の心が、そこにあります。  
狭く、寒い仮設住宅。未だ続く地震に、ギンギンと大きな音を立てます。



信号機が出来ていました



まだまっさらな女川中心部



女川の方達の気持ちです

### 3. 活動報告

今回現地入りしたのは、17名です。車4台(内1台はレンタカー)に分乗し、女川を訪問しました。

各々自宅や友人に借り、コンロ(18台)や、包丁、やかん等を持ち寄りました。

訪問いたしましたのは、宮城県牡鹿郡女川町の「針浜地区仮設住宅 40世帯 98名」、「指ヶ浜地区仮設住宅 14世帯 40名」、宮城県石巻市の「蟹田地区仮設住宅 31戸 88名」、「石浜地区在宅避難者 6世帯 10名」です。

この回のお食事から、「一緒に作る」、「一緒に食べる」事による、コミュニケーションに力を入れ、支援する側、される側では無く、人間同士のお付き合いをさせて頂ける様、心がけております。

少しでも、楽しくワクワクと楽しみに、外出する機会を作らせて頂きたい、と考え、すき焼きパーティーをいたしました。

又、この時期、屋外での活動は、来て頂くにも大変な事から、仮設住宅では集会場、在宅の地区では、ご自宅に上げて頂き、活動いたしました。

以下、活動内容について報告いたします。

(1) 準備期間、支援物資

A. 準備期間 : 2012/01/22 ~ 2012/03/09

B. すき焼きパーティー

・すき焼き	220食分	
・ゴージャス浅漬け	220食分	
・もずく酢	220食分	
・ビールサーバー	2個	(蟹田地区、針浜地区に各々1個)
・ビール、酎ハイ	36本×2地域	(石浜地区、指ヶ浜地区)
・日本酒(冷や)、焼酎	1~2本/各地域	

C. 青空市場(支援物資)

■食品関係

・もち米 50袋

■日用品

・洗濯用液体洗剤 200本 (NSファーファ・ジャパン株式会社さまより)

D. お茶会

- ・お茶、コーヒーなど
- ・お茶請け

(2) 活動レポート

被災から、1年。

今年の女川は、例年に比べても寒く、雪が多いと聞いていた。朝の天気予報を見る度、牡鹿半島の根元は雪のマーク。

今回の活動が、震災から調度1年が経つその時である為、出発前の10日間程は、被災地の情報に事欠かなかった。

マスメディアが、朝から晩まで、被災地の情報を流していたからだ。

選べない程、膨大な番組。複雑な思いが胸をよぎる。このお祭りの様な報道が終わると、被災地熱は消えてしまうのではないのか。これからののに。

我々は、たんたんと、しっかりと、女川の方々の心に寄り添おう。

しっかり思っていないと、吹き飛ばされそうな程、テレビは強く光っていた。

## 2012年2月某日

幹部全員が、すき焼き用のお肉の支援を取り付ける事を、甘く見ていた事に気付いた。

最後に、人形町今半様からの支援が決まった。ホッと胸をなで下ろした。既に女川の方々は「すき焼きパーティー」を楽しみにされていた。

今回の支援の日程の関係から、かなり前から、現地女川町の多くの方達と、沢山の話し合いをしてきた為である。

## 2012年2月11日(土)

ミーティング。前回の大がかりな支援が初参加のメンバーは、小さな支援の想像がつかない様子であった。

勉強会を通して、状況の変化、女川の現状を知り、女川の方々の今の心に寄り添う支援を考える。

我々は、どうしたら、少しでも役に立てるのか。一人一人が、考えなくてはならなかった。

これからは、これまでの支援と比較し、もっと個人対個人の、心が触れ合う活動となっていく。

もっと、知り、学び、想像し、感じなくては、出会う、お一人お一人と、寄り添う事は出来ない。

皆で遅くまで話し合った。

コンロ、鍋、やかん、まな板、包丁、皆で持ち寄る計画。つまり、集合場所には、みな、コンロや、やかんを抱えて来る。ちょっとした楽しい光景になるのでは、と期待していたところ、藤原から、鍋の提供を提案された。すき焼き鍋18個をお貸し頂けるとの事。安堵のため息が漏れた。困ると、必ずメンバーから助けられる。

## 2012年3月8日(木) 出発前日

また、後方支援の方々による、準備が行われていた。すき焼き用の野菜220名分、漬物220名分の、仕込みをしてゆく。前回の活動時に、お漬物を希望される方々が多かった事を受け、今回はたつぷりと漬物をつけて下さった。毎度のことながら、たんたんと、えんえんと続くこの作業。ありがたい事である。決して顔を見る事のない方々の為に、楽しそうに、作業をして頂ける。このグループの良心は、後方支援の方々なのだと再認識した。

## 2012年3月9日(金) 出発当日

日本列島は、また寒波の中に入っていた。出発は21時を予定していた。いつもよりもかなり早い。もちろん、寒波も雪も予想していた。しかし、思った以上に辛い道中となった。

### 20時 荷物積み込み

後方支援の方々による、準備は完璧であった。参加者が、徐々に集まり、地区毎に分けて、荷物を積み込んで行く。各地区のリーダーを中心に、積み荷を確認する。今回はトラックを使わない為、それぞれの車に、最初からしっかりと、分け載せる必要があった。

### 21時

出発。東京出発時から、寒さが気になった。東北自動車道路に乗ると、ミゾレから雪に変わっていた。白河I.C.から、チェーン規制がかかっている。我々の車4台中2台が、夏タイヤである。チェーンは、カネで出来たものしかない。不安がよぎっていた。

### 23時 那須高原SA

チェーンを巻く。慣れない作業に手を焼く。手が凍る程に冷たくなる。寒さの中、全員が見守っていた。



皆で確認しながら積み込み

### 24時

1時間も経たずして、チェーンが切れた。雪は降っているものの、積雪は無く、カネのチェーンへの負担が、大き過ぎるのだ。

## 2012年3月10日(土)

### 2時 安達太良SA

.60km進むのに、3時間を要した。チェーンの切れた車中は、運転手も、運転しない人間も、さぞ疲れたことだろう。しかし、誰一人、文句を言う者は居なかった。目は、イキイキと女川に向かっている。メンバーに恵まれている事を感じつつ、慎重に車を進めた。1台のチェーンは完全に使えなくなった。

### 4時 菅生P.A.着

温度計は、0度を指していた。時間が経てば、路面が凍る。2つの部隊に分かれることとなった。チェーンが切れた1台と、後ろに行くスタッドレスが先発。後の2台は予定通り、菅生P.A.で仮眠を取る。道は途中途中、雪により通行止めとなった。

### 6時

先発部隊は女川に着いた。時を同じくして、仮眠を取っていた後発組は、出発していた。

### 8時

後発隊も女川着。2台目のチェーンも壊れていた。女川は打って変わって積雪は少しもなく、昨夜が嘘の様であった。ぱらつく雪が輝く。朝日の中、皆元気だ。誰も、ほとんど寝ていない。さあ、これから。

### 8時半

女川町総合運動場 体育館前にて最終ミーティング。大丈夫。準備はしてきた。笑顔で。皆励ましあう。その後、コンテナ村商店街(相喜フルーツ様、マルカネ商店様)にて卵、お豆腐、シイタケ、エノキ等、予約させて頂いていた物を受け取る。女川で購入出来る物は、女川で買う。これも、微々たる支援の一環である。



チェーンが…

## 9時

高政様のご好意にて、前日、受け取り、冷蔵庫にて保管して頂いたお肉を、受け取りに行く。  
送料すらも、人形町今半様のご好意。肉30kg、割り下96本迫力ある量である。  
4つの地域に分け、各々の活動に別れていった。  
高政様の社長さんから一言。冷蔵庫くらい、いつでも使って下さい。朝から心が温まった。



コンテナ商店街にて野菜受け取り



車4台、なんとか無事到着!!



雪の中、ミーティング

以下、活動内容は、各グループリーダーの報告によります。

◆Aグループ 担当地域：蟹田地区 31戸 88名（すき焼きパーティー、お茶会）

リーダー…石垣 サブリーダー … 後藤(直)、安部

メンバー…相原、藤原 計5名

蟹田地区は、石巻市内にある仮設住宅である。

ここの訪問は2回目。前回(11月)は、隣の内田地区中心の活動であった為、メンバー揃ってお邪魔するのは初めてである。

到着後、担当5名で、地区長の遠藤さんにごあいさつ。お忙しい時間だったが、快く私たちを迎えてくださった。

集会場をお借りして、早速準備を開始。相談しながら机の配置などを工夫し、あっという間に会場の準備終了。

昼食会の準備と並行し、石垣、相原で一軒、一軒お誘いした。

お仕事、卒業式、震災後1年に伴い、親戚や家族の帰省のお迎えなどのため、留守にされている方が多かったのが、少し残念であった。

在宅されている方は、どなたも気持ちよく話を聞いてくださった。

11:00すき焼きスタート。まずは料理人藤原がおもてなし。はじめは遠慮していた女性陣も、どんどん箸がすすむ。

さすが今半さんのお肉♪ もう1つの鍋は、食べざかりの中学3年生と小学6年生の男子が、「すき焼き久しぶりだな〜」と、わくわくした表情で鍋を見つめる。お肉をほおばり「なんじゃこりゃ〜!」「ううますぎる!!」「こんなうまいのはじめてだ〜!」と、満面の笑みを、見せてくれる。良かった。この姿を、後方支援の方にもお見せしたいほど。

1歳7カ月の赤ちゃんから、70代のお父さんまで、幅広い年齢の方に参加していただけた。

携帯電話から、サイマルラジオにアクセスした。ラジオからは、すき焼きを食べている女の子の声が、聞こえた。

「〇〇ちゃんだ! 誘いたくても電話に出られないはずだ…」女川災害FMは、本当に身近な情報源なのだという事を、実感した。

今回は、お鍋を囲んでの交流、皆さんの滞在が長く、ゆっくりお話をすることができたことが、何よりだった。

中学生と小学生の男の子同志は、震災当日の体験を話していた。

お父さん達は、支援いただいたお酒をお勧めしたところ、「カラオケがあったら飲むんだけどなあ」「夜なら飲めるんだけどなあ」と、残念そう。

お持ち帰りいただき、後で皆さんとゆっくり飲んでいただくことにした。

一緒に、ご支援頂いた洗剤も置いてこさせて頂きました。色んな種類はないから、と感謝の言葉を頂いた。

「夕方だったら人もいっぱいいるし、飲む人もいるよ、メンバーは集会所に泊まったらいいよ。」と、提案して下さったことに、感謝。

若いお母さん方には、女川のソウルフードを、たくさん教えていただいた。「茎わかめのラー油和え」「さんまの粕漬け」「さんまの甘酢煮」

「さんまのめた」「だぶ(さんまを塩で巻いた保存食)」「さんまバーガー」「さんまラーメン」「ハラコめし」「ほやの塩辛」などなど。

どれもおいしそうで試してみたい、と翌日マリンパルで、メンバーが買って帰るものが増えた。

ちょうど他の仮設住宅から、娘さん一家が越してくる準備をされている方にも会った。

結露がひどく、お子さんのぜんそくがひどくなってしまったとのこと。早く、春が訪れてほしい。

内田地区在住のお母さんが、私たちの顔を覚えてくださっていて、お話を伺うことができた。

こうして顔見知りの方が増え、お会いするたびに、表情が明るくなっていらっしゃる様子を知れると、ほっとする。

「ただいま」と、言えるようにまた伺いたい。

14:30撤収開始。ゴミはすべて持ち帰り。集会場を後にする時、告知ポスターの下に「おいしかったよ、ありがとう」の文字を発見。

ほんとうに喜んでいただけた事を知り、メンバー一同、心が温まった。



最初一枚、緊張します!!



綺麗に盛りつけて…



1kgづつ竹皮に包まれたお肉



ありがとうの言葉が

◆Bグループ 担当地域：針浜地区 40戸 98名(すき焼きパーティー、お茶会、ネイルサロン)

リーダー… 府川 サブリーダー … 後藤、野口

メンバー… 三上、末石

計5名

今回は、仮設住宅内の集会所を使わせて頂くため、区長の斉藤さんにごあいさつに伺うと、私たちのために、早くから集会所を暖め、お湯をわかしていただきました。□

机の配置も、私たちが試行錯誤していると、「こうの方がいいわよ」と、アドバイスをしてくださり、

みんなで、一つの輪になるようなセッティングを、することができました。

すこしでも、多くの方に来ていただきたいため、三上と末石が、作成したチラシを一軒一軒配りに行き、

ほかのメンバーで、すき焼きの準備に取り掛かりました。□

開始時間よりも早く、孫や、近くのお子さんを連れて、おばあちゃまが顔を出して下さいました。

しかし、準備がまだできておらず、焦っていたところ、調度、「人形町今半」の社長さんが、お見えになり、

なんと、自ら、皆さんに、おいしいすき焼きを、振舞って下さいました。

「こんな美味しい肉、食べたことない」「幸せだねえ」「美味しい物は、人を幸せにするねえ」「元気がでるねえ」と笑顔がこぼれ、

気付くと、4台の長机の周りには、座りきれないほどの人がいました。

メンバーの慣れない手つきに、次第に、お母さん方が「こうするのよ」と、鍋をつつきだし、和やかな雰囲気になりました。

同時に集会所内で、府川がネイルアートを始めると、最初は照れくさそうにしていたお母さんも、

指先が輝くと、笑顔が輝いていきました。すき焼きよりもネイルがしたくて！と、やってきた方もいて、とても喜んでいただけたようです。

いつの間にか、ネイルも待っている人が増え、ウェイトングリストを作るほど、大盛況になりました。



お漬物もとても好評でした

ようやく、人の流れも落ち着いたころ、あるお母さんが「こんな事くらいしかお礼できないけれど」と、

ご自宅で、コーヒーを入れてきて下さいました。甘くて美味しいすき焼きを食べた後のコーヒー、格別でした。

我々としては、お母さんのご厚意が大変うれしく、また、「自分にもできる何か」を形にできたお母さんも、とてもうれしそうでした。

お茶をしながら、たくさんのお話をしました。□

地震当日のこと、仮設を出てからの不安、地震はつらく、絶対に受け入れがたいことではあるけれど、

それのおかげで、人のやさしさに気づけたこと。新しい仲間、友達が増えたこと。□

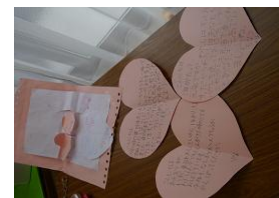
話は尽きなかったが、再会を約束し、針浜地区を後にしました。



まさか今半社長さんが…



ネイルに興味しんしん



東京の子供達から  
女川の皆さまへメッセージ

◆Cグループ 担当地域：石浜地区在宅 6世帯 10名(すき焼きパーティー、お茶会、)

リーダー…小澤徹 サブリーダー…石川稚

メンバー…浅野

計3名

石浜チームは、他チームとは違い、白幡さん宅でのすき焼きパーティーとなった。

ボランティアセンターから、車で向かう道は依然として震災の爪跡が残っていて、テレビでは伝えられない現実を、目の当たりにした。

石浜地区へ着くと、まず菊地さんにご挨拶。

とても快く迎えて頂き、すき焼きパーティー会場の、白幡さん宅へと向かう。

開始時間までまだ時間があつたので、居間でしばらく自己紹介や、生活で不便なことなどを、お話しして頂きました。

11時となり下準備を始めると、段々と参加者が集まり、皆さんご協力により、予定通りすき焼きパーティー開始!  
今半さんからのお肉を見て、一同思わず「おお〜」と声を上げ、鍋へ。  
一口食べるだけで、皆さん「美味しいね」と、言ってくれました。  
一緒に頂いた私達も、あまりの美味しさに、声になりませんでした。  
始まってしまえば、自ずと賑やか食事会となり、あっという間に時間がたっていました。  
途中で、今半の社長さんもお挨拶にいらつしやり、  
皆さんの、美味しそうに食べている様子を見て、とても嬉しそうに話してくださいました。

食事も終わり、片付けまでご協力いただき、予定通りすき焼きパーティーは終了となり、お茶会が開始。  
丁度、テレビで、震災当日の新聞社を舞台にしたドラマが、放送されていました。  
そのドラマを見ながら、震災当日の石浜地区の様子を、お話しして頂きました。  
玄関前まで津波がきた事、まともに食事ができなかった事、  
お話しを聞くだけで、私達の想像を越える出来事であった事を、痛感しました。  
時間となり帰り支度をする中で、「泊まっていてもいいよ」「また来てね」と、暖かい言葉を頂き、  
大変嬉しく思いました。  
最後までお見送りしてもらいつつ、名残惜しくも、石浜地区を後にしました。  
短い時間ながら、私達の活動を受け入れて頂いた石浜地区の皆様の優しさに、感謝の気持ちで一杯です。  
ありがとうございました。



親族の様に接して頂きました



お肉 大き〜!!!



美味しそうに出来ました

◆Dグループ 担当地域：指ヶ浜地区 14世帯 40名（すき焼きパーティー、お茶会、）

リーダー・・・瓜田

サブリーダー・・・仙頭

メンバー・・・小林

計3名

指ヶ浜地区は、今回初めて訪問する地区でした。全14戸というこの地区の方々と、一体どんな出会いがあるのか、  
また初めて何う我々が、受け入れてもらえるか、大きな期待と、少しの不安を抱きながら、車を北に走らせました。  
到着後、地区の責任者である渡辺さんに、ご挨拶。朝早くから外出されていたにも関わらず、すぐに、駆けつけて頂きました。  
荷物の搬出を終え、各世帯へ本日の告知訪問。メンバー全員で、ご挨拶に。  
「お屋前に行くよ」「ちらし見たよ」などの反応を頂ける一方、他の用事があるようで、「行けるかわからない」などのお答も多く、  
一抹の不安が出てきました。

集会場へ戻ると、すでにREALeYEの高橋さんが、準備を始めて下さいました。  
地区の主婦の方々も、早い時間から下準備に参加してください、皆で、野菜の切り等の準備をしました。  
さすが、普段から料理をされている方々の集まりというべきか、準備はあっという間に終了。  
お昼までまだ時間はありましたが、味見と称し、さっそくすき焼き調理に入りました。「うちは卵は使わないのよ」「普段はお肉は豚肉」  
などなど、各家庭でのすきやき談義をしているうちに、野菜も煮えてきたので、人形町今半さんからご寄付頂いた、高級牛肉を、投入。  
味見なのに、皆で、早々に、二皿目に突入しました。

おいしそうな香りにつられてか否か、徐々に、町民の皆さまが集まってきました。  
気がつくと、集会場がいっぱいに。ご老人から赤ちゃんまで、幅広い方々に集まって頂きました。  
ちらし配りの時に感じた不安は、一気に吹き飛び、アットホームな集まりになりました。  
お伺いすると、この地区の仮設住宅は、元々近隣にいた方々が集まっているとのこと。  
最初は「お肉はいらない」と言っていたご年配の方に、若い方が「少しでいいから食べてみて」と、勧めているシーン等、  
ひとつの大きな家族のような雰囲気でした。途中、牛肉を提供して下さった人形町今半の社長さんも、顔をだして下さいました。  
皆さんに、どんどん食べて頂いた為、すきやきパーティーは12時半には、ほぼ落ち着いてきました。

おなかを満たしたお父さん方が、すぐに帰られ、「まだ時間はあるのに」と思いましたが、残った主婦の方々を中心に、楽しいお茶会に。「男たちはいつもこうなんだから」とおっしゃっていたように、この地区ではいつもの光景の模様。  
小林が準備したゲームを、みんなで楽しんだり、持参した漬物(大好評でした)をつまんだり、和気あいあいとした空気が作れました。女性メンバーが会話を盛り上げる一方、唯一男の瓜田は、女川の百戦錬磨の主婦の方々にいじられていました。

明るく、楽しい、すきやきパーティーにしてくれた指ヶ浜地区の皆さんでしたが、仕事が無い、救援物資の減少など、生活への不安も口にされていました。それでも、常に笑顔で我々に接してくれるその姿に、心打たれるものがありました。  
ご提供頂いた洗剤を渡させて頂くと、「こういう良い香りの物って嬉しいのよね〜」、嬉しそうに持って帰られた。  
笑顔で「また来てね」と、手を振って見送って頂いた姿に、「また来たい」と、強く感じました。  
指ヶ浜地区の皆さんに、楽しい時間と、故郷に帰った時のような暖かさを頂いた、そんな活動になりました。



一戸、一戸お声をかけました



お話を聞きながら、慣れない手つきです



REALeYE高橋家にお手伝い頂きました。

#### 16時

撤収が済み、各々の車にてコンテナ村商店街にて、お土産購入。

#### 18時

夕飯。後、反省会。多くの有意義な経験が語られた。今後の課題についても話された。

### 2012年3月11日(日)

#### 8時 出発

#### 8時半

高政さんにてお土産購入。

マリンパルさんにてお土産購入。

支援の一環とはいえ、美味しい物ばかりである。楽しい。



高政さんで蒲鉾大人買い!!!



マリンパルさんでもお買い物〜

沢山の喪服の中、出来るだけ静かに撤収。

今日は、合同慰霊祭の為、下り線が混雑している。

#### 14時46分 上河内S.A.にて、全員揃い、黙禱。

#### 16時半

白金着。片づけ。

以上、簡単ではありますが、活動レポートとさせていただきます。

草の根的な活動ではありますが、少しでも早く、東北地方が復興出来るよう、微力ながら続けていこうと考えております。

今回の活動に、物資ご提供いただいた皆様、支援金を寄付いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に、感謝いたします。

それとともに、引き続きご支援、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

## 4. 活動成果

### (1) 経験、実績を残したこと

- ・初めてリーダーを務める者が、時間配分等を上手に出来た。
- ・メンバー、一人一人が、女川の方々と距離を縮めた。
- ・初めての挑戦であった、「一緒に作る」支援は、ヒトの間の垣根を取り払うのに、有効な方法であった。
- ・小さなグループでの活動を行う事で、女川の方達に威圧感無く、自然にお話に乗せて頂く事が出来た。
- ・一戸一戸、戸を叩かせて頂く事により、普段外に出ていらっやらない方々を、外出に促す事が少し出来た。



(2) 現地の状況を知れたこと

- ・イベント性の強い、興味引く活動であれば、引き籠る方々が、出て来やすい可能性がある事が分かった。
- ・未だ、女川の方々の多くは、被災された時のお話を繰り返される。まだ、聞くフェーズである事を実感した。
- ・浜に近い仮設住宅は、既存のコミュニティーが、そのままに残っている事が分かった。
- ・浜に近いコミュニティーにも、問題は散見される事が分かった。
- ・仮設住宅を含めた生活や、仕事に関する問題が、多く存在する事が分かった。

(3) ネットワークが持てたこと

- ・女川町復興支援センターを始め、各仮設住宅の地区長さんなど、多くのキーマンとネットワークを持てた点
- ・女川災害FMIにおいて、今回もしっかりと宣伝して頂けた

## 5. 今後の予定

(1) 観桜会（白金タワー、白高町会、葦輪町会長）に出店（※雨天時翌日に延期）

やっと、春が参ります。桜を愛でながら、女川の美味しい物に、舌づつみを打ちにいらっしゃいませんか？

4月14日(土)10時～15時、白金(白金タワー周囲の屋外テント)にて、

東京における、女川町の物産販売支援を目的とした、ブース出店をいたします。

女川町から送って頂く、東京ではあまり出会えない、美味しい水産加工品の販売に加え、女川の揚げ蒲鉾を炭火で炙り、販売いたします。

そうなると、ビールが欲しいところ。生ビールも、ご用意いたします。

お子様向けには、女川のお子様にも大人気だった、ミニアメリカンドッグをご準備いたします。

女川の現状を知って頂く展示、弊会の活動に触れて頂ける展示、オフィシャルグッズの販売もごさいます。

是非、お花見がてらに、お誘いあわせの上、足を運んで頂けますと、幸いです。

(2) 女川町5月支援活動の予定

5月18日～5月20日。女川町にまたお邪魔いたします。今回に引き続き、中小規模の活動を、予定しております。

女川町の皆様の心に寄り添う事を、続けさせて頂きたいと思えます。

何か楽しい事が出来ないか、何か心弾む事が出来ないか、頭を捻っております。

皆さまご支援の程、今後とも、よろしく願いいたします。

(3) 第2回頑張っぺ東北！ 同好勉強会・東日本大震災チャリティーコンサート開催。

6月30日 港区高輪区民センター 区民ホールにて、昨年に引き続き、チャリティーコンサートを開催いたします。

被災から1年が経過し、急速に、被災地への関心が、薄れつつある様に感じます。

しかし、女川町の現状を見てきた我々は、未だ有事から抜け出す様子の無い女川町と、東京との間に広がる温度差に、不安を感じざるおえません。

東京にて、被災地への関心を取り戻したい。又、女川町の頑張っている企業の後押しをしたい。

想いを同じく、ご賛同頂きましたパフォーマーの皆さまに、ご協力を得たコンサートです。

子供から大人まで、楽しんで頂けるコンサートとなっております。皆様のお越しを、お待ちしております。

## 6. 補足事項

(1) 参加者(敬称略/順不同)

安部 由美	石垣 健	末石 義史	三上 加寿子
後藤 奈津子	瓜田 創	相原 朋子	野口 砂絵子
小林 由実	浅野 礼博	後藤 直子	府川 めぐみ
小澤 徹	石川 稚子	藤原 朗	仙頭 淳子
工藤 史大			

(2) 後方支援者(敬称略/順不同)

尚礼会町会	鈴木 照子	森 トシ子	加藤 豊
橋本 翔二	長谷川 真理	小澤 雅志	山中 秀樹
藤川 芳江	藤本 佳代子	小澤 静子	若本 智子

大脇 智子

池上 珠子

川端 陽子

(3) 支援物資提供 (敬称略/順不同)

株式会社 小倉

ホルモン焼き夏冬

アリス・グループ・ジャパン株式会社

株式会社 人形町今半

NSファーファ・ジャパン株式会社

宮川内科小児科医院

秋田の酒蔵

藤川 芳江

岡野 恵理香

熊澤 健介

川端 陽子

安藤 和美

藤原 朗

(4) 支援金寄付 (敬称略/順不同)

Rapha 鍼・灸・マッサージ 患者募金

ホルモン焼き夏冬

白金杯一同

Nail salon Cloche

目黒BAR GONE

橋本 翔二

鈴木 康之

安部 由美

小林 由実

渡辺 静江

鈴木 美世子

後藤 直子

府川 めぐみ

石川 重美

工藤 衣世

後藤 奈津子、他

瓜田 創

川尻 由美子

佐藤 由香

末石 義史

石垣 健

小林 敬一

小林 洋子

相原 朋子

三上 加寿子

藤原 朗

仙頭 淳子

工藤 史大

(5) 行政支援

港区防災課 様 「災害派遣等従事車両証明書」の発行

(6) 現地受け入れ先

宮城県女川町災害復興支援センター (旧: 災害ボランティアセンター) 様

(7) 現地協力団体

REALeYE (高橋 圭介 様、高橋 一枝 様)

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうえで、成り立っております。

本当にありがとうございました。

私達は、被災地への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

平成24年3月22日

東北被災地応援団 白金支部

工藤 史大



★東北被災地応援団 白金支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2011 Tohokuhaichichi-Ouendan All Rights Reserved.